

# 意外に思われるかもしれませんが、がん治療の副作用には



## つらい口内炎や味覚障害があります！



日本人の死因の第1位のがんは、男性で2人に1人、女性で3人に1人が一生の間に診断される疾患です。しかしながら、どの抗がん剤を使用しても副作用は避けられず、40%の方にお口のトラブルが起こり、そのうちの約半数は口内炎が強く発症することにより、がん治療が延期されたり、薬の量に変更される場合があります。

これらのお口のトラブルは、お口の衛生状態の悪い人に起こりやすく、予防的な口腔ケアにて、その症状を軽くすることができます。 《がん治療に伴うお口の合併症の割合》

40%	抗がん剤治療を受ける患者さん このうちの50%の方に口内炎症状が強く、投与スケジュールの変更や投与量の変更を余儀なくされています
80%	血液のがん、特に造血幹細胞移植の患者さん
100%	お口に放射線が当たる頭頸部がん患者さん

(米国がんセンターホームページより)



お口の中の熱感や腫脹感(はれぼったい)また、神経因性疼痛(しびれたり、刺す痛み)が持続性に刺激・増強することで摂食・味覚障害を起こす口内炎

そこで、米国がんセンターでもがん治療を始める2週間前までには、歯科検診と口腔ケアを受けることを推奨しています。

特に、抗がん剤治療が何回か継続して行われる場合は体力も弱り、お口のトラブルが繰り返し起こるので研修を受けた歯科医院にて、治療前の歯科検診を受けることをお勧めします。治療を始めると吐き気などで歯磨きも不十分になりますので、治療予定が決まりましたら、すみやかに口腔ケアを受け、がん治療と並行して定期的な口腔管理をしましょう。

また、がん治療後の抜歯は感染のリスクがありますので、抗がん剤を服用中の方は定期的な口腔ケアをお勧めします。

**がん治療中はお口をキレイにしましょう！**

